

## 07.リスボン万博ポルトガル館



1998年リスボン万博に合わせ完成したアルヴァロシザとソウト・デ・モウラの共同設計のパビリオン。構造設計はセシル・バルモンド。

恒久的な利用を要求されたシザは厚さ約200 mmのスラブを吊り圧倒的な空間を作り上げた。

構造的見地からも特筆されるこのパビリオンは現在も主要イベントで活用され、その役割を果たし続けている。

スラブは両端のコンクリートと縁を切りストレスケープルによりコンクリートと付着させずに吊られ、コンクリートに引張応力を発生させていない。両端の支持構造体に生じる転倒モーメントは強靱な地中梁で繋がっているが、その存在は一切感じなかった。

大屋根内部の壁面には色違いのタイルが用いられ変化が見受けられた。

シンプルに考えると【屋根を吊った】という捉え方になりがちだが、その圧倒されるスケール感からその枠を脱し、シザの手腕に感動を覚えた。